

イーストスプリング・
インド株式オープン

追加型投信／海外／株式

作成対象期間 2023年10月3日～2024年9月30日

第20期 2024年9月30日決算

受益者のみなさまへ

平素は格別のお引立てにあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、主としてインドの金融商品取引所に上場されている株式を主な投資対象とする投資信託証券に投資を行い、中長期的な信託財産の成長を図ることを目的として運用を行います。当作成対象期間につきましてもこれに沿った運用を行ってまいりました。ここに、その運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜わりますよう、お願い申し上げます。

日経新聞掲載名：インド株

第20期末(2024年9月30日)

基準価額	30,775円
純資産総額	268,641百万円
第20期	
騰落率	26.9%
分配金(税込み)合計	1,000円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

〒100-6905

東京都千代田区丸の内2-6-1丸の内パークビルディング

<https://www.eastspring.co.jp/>

【お問い合わせ先】

電話番号：03-5224-3400

(受付時間は営業日の午前9時から午後5時まで)

当ファンドは、信託約款において運用報告書(全体版)を電磁的方法によりご提供することを定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順で閲覧、ダウンロードすることができます。なお、書面をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

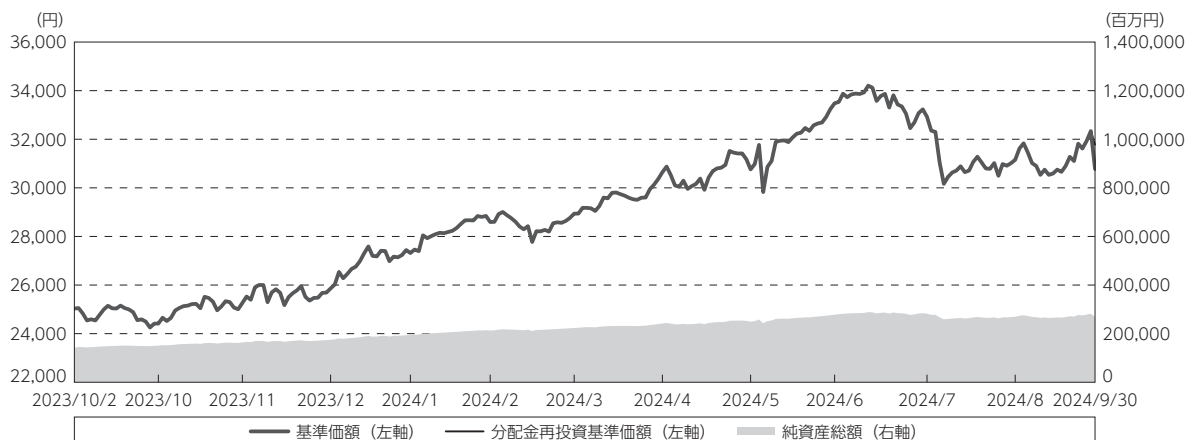
<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>

ホームページにアクセス⇒「ファンド情報」を選択⇒ファンド名を選択⇒「目論見書・月報・運用報告書等」の「運用報告書(全体版)」を選択

運用経過

基準価額等の推移について

(2023年10月3日～2024年9月30日)



期 首：25,032円

期 末：30,775円 (既払分配金 (税込み)：1,000円)

騰落率： 26.9% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 分配金再投資基準価額は、期首 (2023年10月2日) の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 当ファンドにおいては、運用の基本方針に適合した、公表されている指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

基準価額の主な変動要因

当期の基準価額は上昇しました。

(上昇要因)

- ・投資対象ファンドを通じて保有する銘柄の株価上昇。

1万口当たりの費用明細

(2023年10月3日～2024年9月30日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	390	1.342	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(159)	(0.547)	委託した資金の運用の対価
(販 売 会 社)	(222)	(0.766)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(9)	(0.030)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	0	0.002	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(0)	(0.000)	海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(0)	(0.001)	監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他 1)	(0)	(0.000)	信託管理事務に係る手数料
(そ の 他)	(0)	(0.000)	金銭信託に係る手数料等
合 計	390	1.344	
期中の平均基準価額は、29,032円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

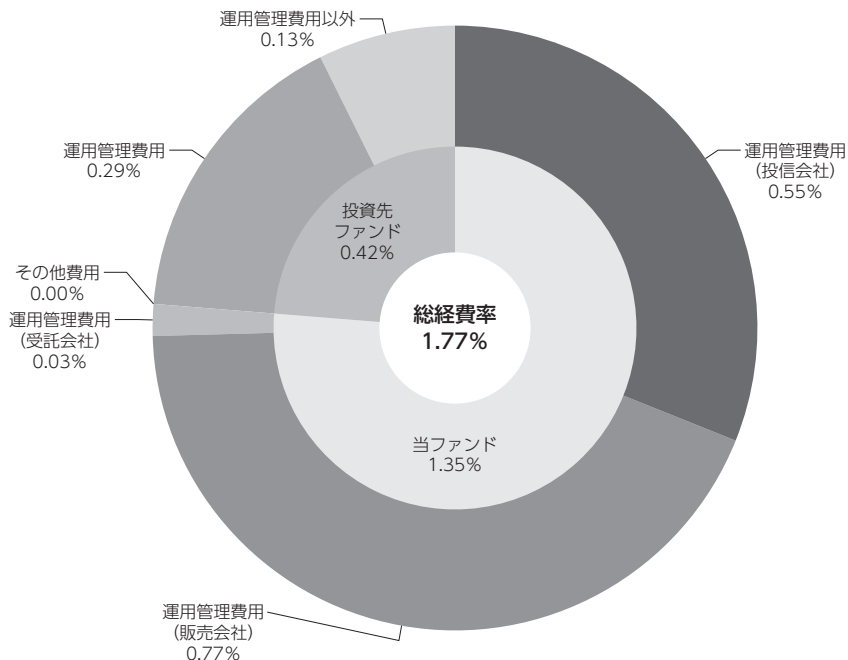
(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注) 各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(参考情報)

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.77%です。



(単位: %)

総経費率(①+②+③)	1.77
①当ファンドの費用の比率	1.35
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.29
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.13

(注) ①の費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券です。

(注) ①の費用は、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移について

(2019年9月30日～2024年9月30日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
 (注) 分配金再投資基準価額は、2019年9月30日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2019年9月30日 決算日	2020年9月30日 決算日	2021年9月30日 決算日	2022年9月30日 決算日	2023年10月2日 決算日	2024年9月30日 決算日
基準価額 (円)	13,836	13,334	20,282	22,086	25,032	30,775
期間分配金合計(税込み) (円)	—	0	1,000	1,000	1,000	1,000
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 3.6	59.6	13.8	17.9	26.9
純資産総額 (百万円)	81,654	68,759	77,293	81,723	141,789	268,641

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
 (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
 (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
 (注) 当ファンドにおいては、運用の基本方針に適合した、公表されている指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

投資環境について

インド株式市場

インド株式市場は、期初から中東情勢の緊迫化に伴う原油価格上昇懸念や米長期金利の上昇を受けた米国株の調整などを背景に下落しましたが、その後は米利上げサイクルの終了観測やインド地方議会選挙にてモディ首相率いる与党インド人民党（BJP）が勝利したことが好感され株価は反発しました。2024年6月にはインド下院総選挙の結果が嫌気され株価が大きく下落した局面が見られましたが、連立政権によって主要な改革は継続される可能性が高いことや第3次モディ内閣の閣僚名簿が公表され、主要ポストが再任となり主要な改革は継続されるとの期待から株価は反発しました。7月に発表された2024/25年度（2024年4月～2025年3月）国家予算案の内容はキャピタルゲイン税引き上げのほかは、全体的に経済成長と財政健全化のバランスの取れた内容であったことが好感され株価上昇を後押ししました。通期でも上昇となりました。

為替市場

インドルピーは、2023年12月に米利下げ期待から米ドルが下落したことを受けて米ドルに対して上昇しました。しかしその後は、強い米経済指標の発表を受けて米ドルが上昇したことや、2024年7月に発表された2024/25年度国家予算案におけるキャピタルゲイン税引き上げなどを背景にインドルピーは米ドルに対して下落しました。円は7月末に日銀が円安への対応などから0.25%の利上げを実施したことを受け、円高米ドル安となりました。通期でインドルピーは円に対して下落しました。

国内債券市場

日本国債市場では、米長期金利に連動して期初から利回りが上昇（価格は下落）しましたが、その後米利上げサイクル終了観測から米長期金利が低下したことを受けて日本国債利回りも低下しました。2024年3月に日銀がマイナス金利政策の解除およびイールドカーブ・コントロール（長短金利操作）の撤廃などを行ったことから日本国債利回りは上昇しました。その後は、7月末に日銀が0.25%の利上げを実施したものの、米景気後退入り懸念や低金利の円を借りて金利の高い国の資産へ投資する円キャリートレードの巻き戻しなどを背景に世界の株式市場が急落した結果、安全資産である国債が買われ日本国債利回りは低下しました。通期では利回り上昇となりました。

ポートフォリオについて

当ファンド

主要な投資対象の一つであるイーストスプリング・インベストメンツ・インディア・エクイティ・オープン・リミテッド（以下「インディア・エクイティ・オープン」ということがあります。）の組入比率を高位に保つよう運用しました。

インディア・エクイティ・オープン

インド株式を主要投資対象とし、長期的な成長を目指した運用を行いました。個別銘柄調査とバリュエーションを重視し、市場全体およびセクター内で割安に評価されている銘柄を中心に投資を行い、割高となった銘柄の組入れを減らしました。当期は、スポーツ用多目的車（SUV）の販売が好調であったことが好感され上昇した大手自動車メーカーのマヒンドラ・マヒンドラの保有がプラス要因となった一方で、最高財務責任者（CFO）の退任発表が嫌気され下落した金融サービス会社のクレジットアクセス・グラミンの保有がマイナス要因となりました。

イーストスプリング国内債券ファンド（国債）追加型 I（適格機関投資家向け）

主としてデュレーションをコントロールすることによって、ベンチマークであるICE BofA 国債インデックス（1－10年債）を中長期的に上回ることを目指して運用を行いました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドにおいては、運用の基本方針に適合した、公表されている指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

分配金について

分配金額は、基準価額水準・市況動向等を勘案して、以下の通りとさせていただきます。なお、留保益の運用につきましては、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。

○分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項 目	第20期
	2023年10月3日～ 2024年9月30日
当期分配金	1,000
（対基準価額比率）	3.147%
当期の収益	1,000
当期の収益以外	－
翌期繰越分配対象額	20,775

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

（注）－印は該当がないことを示しています。

今後の運用方針について

当ファンド

主要な投資対象の一つであるインディア・エクイティ・オープン¹の組入比率を高位に保つことを基本とします。

インディア・エクイティ・オープン

国家予算案におけるキャピタルゲイン税引き上げを受けてもこれまで堅調であったインド国内からのインフローに与える影響は限定的と見ています。連立政権によって主要な改革は継続される可能性が高い一方で、争点の多い改革の実現には時間を要すると予想され、今後の州選挙に向けて政府は短期的にはインフラ投資よりも農村部支援に政策の重点を置く必要性に迫られると見ています。このような環境下では個別銘柄選択において規律あるバリュエーション評価が重要です。長期的には米中の地政学的な緊張の高まりからインド経済は恩恵を受けると見ています。海外からの投資を呼び込むことで設備投資が拡大し、経済は活性化されると考えます。インドはこれまで他の新興国と比較して、バリュエーションから見て割高な水準にありますが、内需の国であるインドは世界的な景気変動の影響が相対的に小さいことや、政策や制度改革への政府の取り組みを市場が評価していることが背景にあります。引き続き、ファンダメンタルズが強固で割安な銘柄に着目しながら、選別投資を行う方針です。

イーストスプリング国内債券ファンド（国債）追加型 I（適格機関投資家向け）

今後もファンダメンタルズ分析、金利動向予測、イールドカーブ分析等を行い、ベンチマークであるICE BofA 国債インデックス（1－10年債）を中長期的に上回ることを目指した運用を行っていく所存です。

お知らせ

2023年12月27日付で投資対象ファンドにおけるデリバティブの使用目的を、投資の対象資産を保有した場合と同様の損益を実現する目的ならびに価格変動リスクおよび為替相場の変動リスクを減じる目的に限定することを明確化する約款変更を行いました。なお、かかる変更は、運用の実態に即した記載内容に変更するものであり、実際の運用の基本方針、運用体制等につきましては、一切変更はございません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／株式
信託期間	無期限（2004年9月30日設定）
運用方針	投資信託証券への投資を通じて、主にインドの金融商品取引所に上場されている株式に投資を行い、信託財産の成長を目指して運用を行います。
主要投資対象	外国投資法人「イーストスプリング・インベストメンツ・インディア・エクイティ・オープン・リミテッド」の米ドル建て投資証券およびわが国の証券投資信託「イーストスプリング国内債券ファンド（国債）追加型Ⅰ（適格機関投資家向け）」の受益証券（振替受益権を含みます。）を主要投資対象とします。
運用方法	以下の投資制限のもと運用を行います。 <ul style="list-style-type: none">・投資信託証券への投資割合には制限を設けません。・外貨建資産への投資割合には制限を設けません。・株式への直接投資は行いません。
分配方針	毎決算時（9月30日。休業日の場合は翌営業日。）に、基準価額水準・市況動向等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は、収益分配を行わないこともあります。

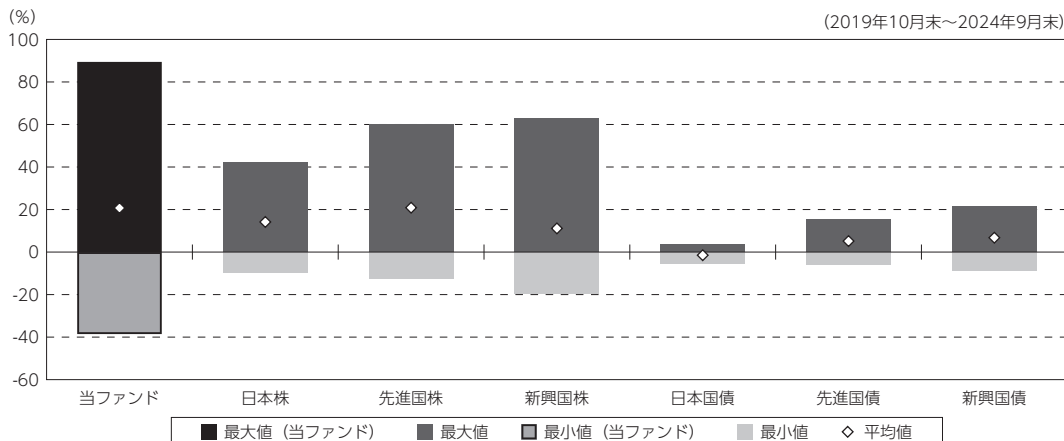
指数に関して

当ファンドの投資対象である「イーストスプリング国内債券ファンド（国債）追加型Ⅰ（適格機関投資家向け）」のベンチマーク（ICE BofA 国債インデックス（1－10年債））について

ICEの指数データは、ICE Data Indices, LLC、その関係会社（以下「ICE Data」）及び／またはその第三者サプライヤーの財産です。ICE Data及びその第三者サプライヤーは、その使用に関して一切の責任を負いません。

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	89.4	42.1	59.8	62.7	3.7	15.3	21.5
最小値	△ 38.6	△ 9.5	△ 12.4	△ 19.4	△ 5.5	△ 6.1	△ 8.8
平均値	20.7	14.1	20.9	11.1	△ 1.5	5.2	6.8

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2019年10月から2024年9月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：配当込みTOPIX

先進国株：MSCI - KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA - BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド(円ベース)

※各指数についての説明は、後述の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

ファンドデータ

当ファンドの組入資産の内容

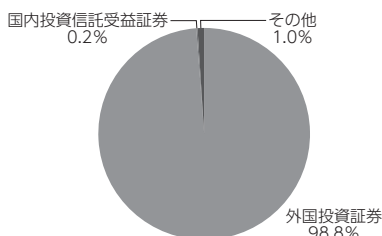
○組入上位ファンド

銘柄名	第20期末
	%
イーストスプリング・インベストメンツ・インディア・エクイティ・オープン・リミテッド	98.8
イーストスプリング国内債券ファンド(国債)追加型 I (適格機関投資家向け)	0.2
組入銘柄数	2銘柄

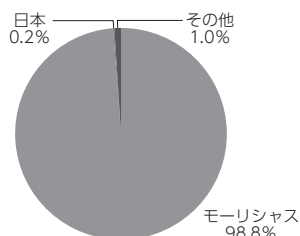
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

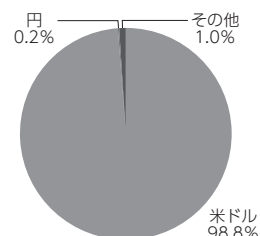
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国(地域)もしくは投資国(地域)を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

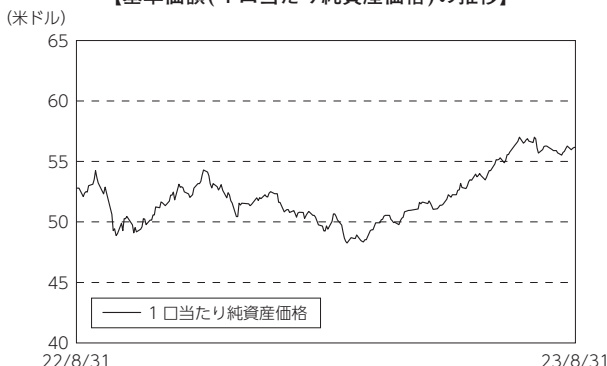
項目	第20期末
	2024年9月30日
純資産総額	268,641,373,479円
受益権総口数	87,291,267,064口
1万口当たり基準価額	30,775円

(注) 当期中における追加設定元本額は42,875,720,787円、同解約元本額は12,226,677,038円です。

組入上位ファンドの概要

イーストスプリング・インベストメンツ・インディア・エクイティ・オープン・リミテッド

【基準価額(1口当たり純資産価格)の推移】



【1万口当たりの費用明細】

2022年9月1日～2023年8月31日

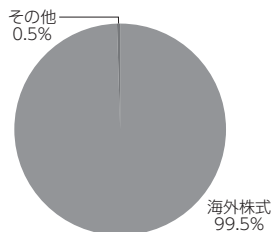
当該期間のFinancial Statements (監査済み) には、1万口当たりの費用明細が開示されていないため、記載できません。

【組入上位10銘柄】

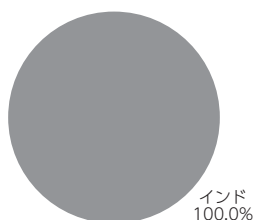
(2023年8月31日現在)

	銘柄名	業種	国・地域	比率
1	リライアンス・インダストリーズ	エネルギー	インド	9.2%
2	インフォシス	ソフトウェア・サービス	インド	8.0%
3	ICICI銀行	銀行	インド	8.0%
4	アクシス銀行	銀行	インド	4.7%
5	HDFC銀行	銀行	インド	4.5%
6	ラーセン&トップロ	資本財	インド	3.4%
7	サン・ファーマシューティカル・インダストリーズ	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	インド	3.0%
8	インダスインド銀行	銀行	インド	2.6%
9	マヒンドラ・マヒンドラ	自動車・自動車部品	インド	2.6%
10	インドガス公社	公益事業	インド	2.4%
	組入銘柄数		46銘柄	

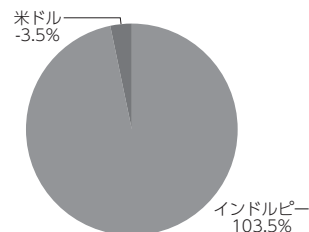
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 組入ファンドのデータは、当社で入手可能な時点のもの (監査済みおよび同時点の関連データを含む) を使用しています。

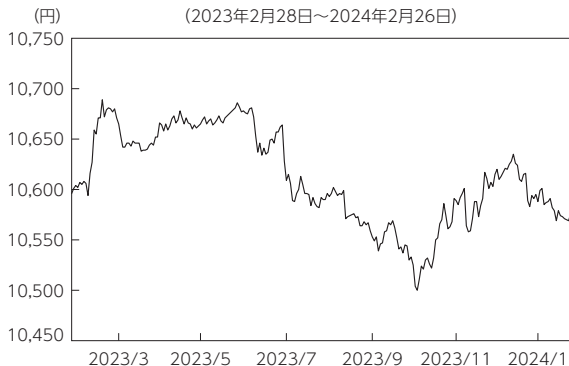
(注) 組入上位10銘柄、資産別・通貨別配分の比率は組入ファンドの純資産総額に対する割合、国別配分の比率は組入銘柄の総額に対する割合です。

(注) 通貨別配分において、基準日をまたぐ為替取引等の計上により数値がマイナスになることがあります。

* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書 (全体版) でご覧いただけます。

イーストスプリング国内債券ファンド（国債）追加型Ⅰ（適格機関投資家向け）

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2023年2月28日～2024年2月26日)

項 目	当 期	
	金 額	比 率
(a) 信 託 報 酬 (投 信 会 社) (販 売 会 社) (受 託 会 社)	23 (15) (2) (6)	0.219 (0.143) (0.022) (0.055)
(b) そ の 他 費 用 (監 査 費 用) (そ の 他)	2 (2) (0)	0.014 (0.014) (0.000)
合 計	25	0.233

期中の平均基準価額は、10,610円です。

- (注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。
 (注) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
 (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
 (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

【組入上位10銘柄】

(2024年2月26日現在)

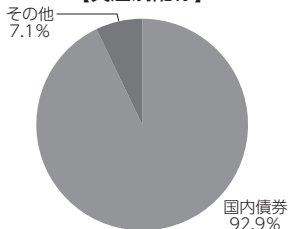
銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
1 第359回利付国債(10年)	国債	円	日本	23.9%
2 第91回利付国債(20年)	国債	円	日本	19.8
3 第117回利付国債(20年)	国債	円	日本	11.9
4 第354回利付国債(10年)	国債	円	日本	8.1
5 第87回利付国債(20年)	国債	円	日本	8.0
6 第351回利付国債(10年)	国債	円	日本	6.9
7 第67回利付国債(20年)	国債	円	日本	6.2
8 第80回利付国債(20年)	国債	円	日本	5.4
9 第75回利付国債(20年)	国債	円	日本	2.8
10 -	-	-	-	-
組入銘柄数			9銘柄	

(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

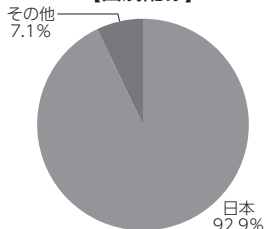
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) 国(地域)につきましては発行国(地域)もしくは投資国(地域)を表示しております。

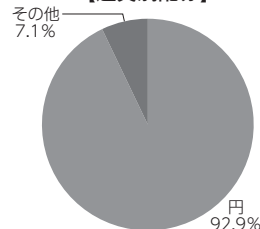
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国(地域)もしくは投資国(地域)を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

＜代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について＞

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

○配当込みTOPIX

配当込みTOPIXは、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、配当を考慮したものです。なお、配当込みTOPIXの指数値及び同指数に係る標章又は商標は、株式会社J P X総研又は株式会社J P X総研の関連会社の知的財産です。

○MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。

○MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。

○NOMURA-BPI国債

NOMURA-BPI国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA-BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。

○FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド（円ベース）

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド（円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。